



前向きな挑戦を
惜しまず、楽しむ!

どうすればお客様に喜んでもらえる「もの」を作れるか。
社員が技術を高め合える雰囲気。



左から順に取締役統括部長・佐藤尚志さん、代表取締役・古谷美幸さん、
取締役工場長・佐藤尚孝さん、開発係・藤原和幸さん。

株式会社 フルヤモールド

大仙市角間川に本社兼工場を持ち、金型設計・製作からプラスチックの射出成形まで一貫して行う株式会社フルヤモールド。「夢を叶える「ものづくり」企業」を理念に据え、リーマンショックや東日本大震災、コロナ禍などのさまざまな困難を乗り越え、全国から注文を受けるだけでなく、自社製品の開発も精力的に行っている。同社が取り組む技術研鑽や人材育成について代表取締役の古谷美幸さんにお話を伺った。

代表取締役 古谷 美幸

〒014-1413
大仙市角間川町字中木内244-1
TEL 0187-65-2477
FAX 0187-65-2488
<https://www.furuyamold.com/>



HP



プラスチック製品の射出成形 金型設計・製造も一貫して対応

株式会社フルヤモールドは、昭和63年に現在の代表の父・古谷武美氏が創業、当初は射出成形のみを自社で行っていた。顧客の要望に細やかにかつ迅速に対応すべく、創業から4年後には設備を導入し、自社で金型の製作を始めた。その後、時代のニーズに合わせ、ISO9001、14001の認証を取得。より良い案件獲得のため努力を続け、現在は自動車部品や電子機器部品を中心に製造を行う。

令和6年4月に美幸さんが代表取締役
に就任。武美さんは取締役会長に就任
した。

「父の代から顧客の依頼をお断りする
ことはなく、できる限りお応えしてきま
した。どうすれば喜んでいただけるのか、
どうすれば社内でそれが実現できる
のか。試行錯誤を繰り返し、それが技術
の研鑽に繋がってきたと自負しています。」
と美幸さんは振り返る。

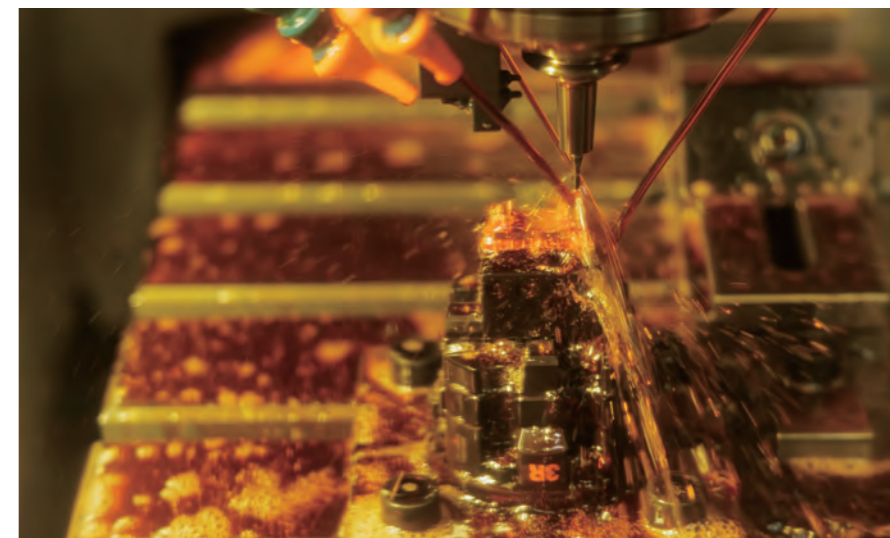


射出成形は細かな調整を手作業で行う。

受注生産が中心だったが コロナ禍の取組が転換点に

創業以来、受注生産を行ってきた
同社。ターニングポイントとなったのは、
コロナ禍に「ものづくり Team Akita」
に参加したことだ。

感染拡大防止を目的とした「飛沫
防止カバー」の開発を通して、自分
たちにも顧客に喜んでもらえる製品



金型の切削加工を行う様子。

を作れるという自信に繋がったという。
以来、自社製品の開発も積極的に行う
ようになった。

また、令和2年から秋田大学医学部
とともにウロストーマと呼ばれる、人口
膀胱から専用の袋に尿を送る際に使わ
れるコネクタの共同開発に着手。
従来多発していた、チューブのねじれ
による尿もれを防ぐことができる製品
だ。担当した開発係の藤原和幸さんは
「秋田大学未来研究統括機構や秋田県
産業技術センターの協力を得ながら
実証実験を重ね、実現できた。最近では
日本ストーマ・排泄リハビリテーション
学会でも発表され、興味を持ってくだ
さった企業様からお問い合わせもあり
ました。」と語った。

コミュニケーションを大切に 風通しの良い組織づくり

同社の強みは多種多様な樹脂の
取扱ができること。「フルヤモールドに



今回新開発したウロストーマのコネクタ。

相談すればなんとかなる」という流れ
ができてあり、全国からの問い合わせ
も増えている。

「おかげさまで幅広い業界との取引
があり、長く取引していただけている
企業様もいらっしゃいます。お客様との
信頼関係を深めるため、そして秋田と
いう距離を感じさせないためにも、担当
者が月に一度は足を運んでいます。」
と美幸さん。一方、組織づくりや人材
育成にも力を入れている。

「ものづくりの会社だからこそ、社内
のコミュニケーションを強固にしたい。
一人ひとりの能力を引き上げ、仕事
のレベルを上げていくための取組を
行っています。自分たちの作業がどれ
だけ社会に貢献しているかが感じられ、
社員自身が夢を持てるような会社
づくりをしていくため、「夢を叶える
『ものづくり』企業」という理念を新た
に掲げました。ものづくりはひとつ
づくり。人材育成にはこれからも力を入
れます。」と意気込みを語った。



人の手による検査を行い、高い品質を保持する努力も
怠らない。